

# 雲取山山行報告

【山行日】2021年 11月 7(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 2,000円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西、

石澤、清水カ、関、廣瀬。福島、藤原

【コースタイム】岩舟支所P 4:00 = 小袖登山口

P6:05/6:25 ~ 堂所 8:05 ~ セツ石小屋 8:50/9:05 ~

セツ石山 9:25/9:35 ~ 奥多摩小屋 10:10 ~ 雲取山

11:25/12:05 ~ セツ石山分岐 13:05/13:15 ~

堂所 14:10 ~ 小袖登山口 13:15/13:30 = 岩舟支所P 18:05

雲取山に日帰りで登りたいというリクエストがあり、小袖登山口からピストンコースを計画した。岩舟支所を4時に出発し、東北道から圏央道を走り青梅ICから奥多摩に向かって進む。国道411号



線を進み、奥多摩湖を過ぎ鴨沢集落から右に小袖への林道に入る。5分くらい走ると左に広い駐車場があり、小袖乗越の駐車場に車を止める。すでに20台以上車が止まっており、トイレも完備され人気の駐車場である。準備を整えトイレを済ませ、ストレッチを行なったら出発する。舗装道路を左に進み、10分ほど歩くと左側に登山口がある。本日も累計標高差1700m、移動距離20Kmとハードなコースを登るので気合を入れてスタートする。植林地の道を登って行くと、廃屋やイノシシ避けのネットを張

った畑を通過する。以前、こんな山奥で生活していた人が居たんだなと感心する。しばらく植林帯の

道を登ると水場を過ぎ、さらに山腹を登り上がると尾根上に出て堂所と呼ばれる場所に出る。堂所からは自然林が多くなり、紅葉も見られるようになる。左側の斜面は紅葉が見頃で、帰りは陽が差して綺麗だろうと想像しながら登る。

しばらく登るとセツ石小屋への分岐となり、右に進んでセツ石小屋へ向かった。九十九折れの道を登ると小屋が見え、小屋の奥に入ってベンチで休憩する。ここからは富士山の眺望が得られ、トイレもあるので休憩にはうってつけの場所である。H瀬さんからどら焼きが出て、お腹が空いた



皆さんは喜んで食べていた。ここから登山道に戻り、直進して最初のピークセツ石山に向かう。すぐに巻道の分岐になり、右に急坂を登ると石尾根縦走路に出てひと登りでセツ石山の山頂に出る。



明るく展望が良い山頂で、富士山や雲取山の眺望が得られる。東京都のモダンな御影石の山頂碑



が立ち、山頂碑の前で記念写真を撮る。山頂から石尾根を北西に下り、広い防火帯の道は展望が良く気持ちが良い。下り切った場所がブナ坂で、ここで小袖からの道と合流する。ここからはしばらく平坦な尾根歩きが続き、展望が良く今日のコース一番の楽しい歩きだ。富士山を見ながら爽快に歩き、ヘリポートを過ぎると奥多摩小屋跡に着く。丸太のベンチで休憩し、ナシや菓子を食べてこれからの急登に備える。この先から急な尾根筋を登り、小雲取山の山頂に立つ。

少し下るとのびやかな尾根が雲取山まで続き、岩がゴロゴロした道を登り切ると雲取山避難小屋に着く。小屋の前を通って岩場を登ると、日本百名山で東京都の最高峰雲取山山頂に着く。山頂に着くと西側が曇っていて、富士山の展望は得られなかったが、東側の奥秩父の山々は良く見える。山頂碑の前で記念写真を撮り、方向指示盤で山座同定を楽しんだら南峰へ移動する。岩場に各自場所を確保しランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンをいただく。煮タマゴや豆とヒジキのサラダなどが出て、豪華なランチをいただいたがこの時間だけ曇り、陽射しが無くて少し寒かった。ランチが済んだら女性達は避難小屋のトイレに寄り、全員済ませたら下山開始する。下山は往路を戻り、ピークは巻道を進む。石尾根のカラマツが陽射しを受けて黄金色に輝き、往路と違った景色に皆さん驚いていた。ブナ坂からはセツ石山に登らず巻道を進み、南側の紅葉が陽射しを受け登りとは別世界の光景だった。紅葉を楽しみながら足取りは軽く、快調に下って無事小袖乗越の駐車場へ予定通り到着した。靴を履き替えトイレを済ませたら帰路につき、途中若干渋滞があったが予定より早く岩舟支所に帰着した。

